

カトリック六甲教会 教会報

3

No.567



		教会暦	教会行事	
3 月	1	金	初金曜日ミサ 7:00 10:00	
	2	土	教会掃除 (教会学校) 結婚セミナー⑤	
	3	日	年間第8主日	
	6	水	灰の水曜日 (大斎・小斎) 四旬節中、四旬節愛の献金	ミサ 7:00 10:00 19:00 (すべてのミサで灰を受けられます)
	8	金		教会掃除 (灘西・中央)
	9	土		社会活動部炊き出し 教会学校 卒業式・終業式 教会学校 卒業合宿 (~10日) 結婚セミナー⑥
	10	日	四旬節第1主日	洗礼志願式 小教区評議会 12:00
	15	金		教会掃除 (東灘北1) 十字架の道行 10:00
	16	土		教会学校 錬成会 (~17日) 結婚セミナー⑦
	17	日	四旬節第2主日	幼児を持つ親の集い 11:00 ふれあい広場
	18	月		三日月会 ミサと懇親会 14:00
	19	火	聖ヨセフ	
	20	水		司祭評議会
	21	木		教区召命の日 教会受付休み (春分の日のため)
	22	金	性虐待被害者のための祈りと償いの日	教会掃除 (東灘北2・芦屋) 十字架の道行 10:00
	23	土		教会学校 2年生1日錬成会 結婚セミナー⑧
	24	日	四旬節第3主日	
	25	月	神のお告げ	
	28	木		定期清掃
29	金		十字架の道行 10:00	
31	日	四旬節第4主日		

＜四旬節愛の献金（四旬節中）＞

教皇は毎年、四旬節に向けてメッセージを發表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけます。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされている人たちとの共感を大切にするよう一人ひとりに訴えるとともに、四旬節中の「愛の献金」を奨励しています。

この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人々のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。

		教会暦	教会行事	
4 月	5	金	初金曜日ミサ 7:00 10:30 十字架の道行 10:00 第1回社会活動部連絡会 12:00	
	7	日	四旬節第5主日	
	12	金	十字架の道行 10:00	
	13	土	社会活動部炊き出し 教会学校 入学式・始業式	
	14	日	受難の主日(枝の主日) 世界青年の日	地区役員会① 12:00
	17	水		聖香油ミサ 11:00 (カテドラル) 司祭金銀祝
	18	木	聖木曜日(主の晩さん)	主の晩さんのミサ 19:00
	19	金	聖金曜日(主の受難)(大斎・小斎) 聖地のための献金	主の受難の祭儀 19:00
	20	土	聖土曜日/復活徹夜祭	復活徹夜祭ミサ 19:00
	21	日	復活の主日	復活の主日のミサ 7:30 10:00 ご復活お祝い会・高山神父送別会 10時ミサ後
	28	日	復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)	教会学校 初聖体・祝福式 初聖体・祝福式お祝い会 10時ミサ後 施設管理部会 11:30
29	月		教会受付休み	

2019年「第27回世界病者の日」教皇メッセージ（2019.2.11）

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」（マタイ10・8）

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」（マタイ10・8）。これは、イエスが、福音をのべ伝えるために使徒たちを派遣する際に、無償の愛のわざを通してみ国を広めるよう述べたことばです。

第27回「世界病者の日」がインドのコルカタで2019年2月11日に厳かに祝われるにあたり、病者をはじめとするすべての子らの母である教会は、よいサマリア人のように無償で与えることが

福音宣教のもっとも確かな方法であることを、わたしたちに思い起こさせます。病者に対するケアには、専門的な技能と愛情、さらには優しく触れる行為のような、「愛されている」と相手に感じさせる無償で直接的で飾らない行いが求められます。

いのちは神から与えられた「恩恵」（たまもの）です。「いったいあなたの持っているもので、いまだなかつたものがあるでしょうか」（一コリント 4・7）と聖パウロが指摘しているとおりです。神から与えられた恩恵であるからこそ、単なる所有物や私有財産とみなすことはできません。医学とバイオテクノロジーの進歩により、「いのちの木」（創世記 3・24 参照）の操作への誘惑に人々がさらされている状況においてはなおさらです。

その「恩恵を互いにささげ合うこと」（たまもの）は、新たなきずなと多種多様な協力関係を諸民族、諸文化の間に結ぶために、利己主義や現代社会の分断化に挑戦することを可能にする枠組みとして位置づけられるべきであることを、わたしは、使い捨てと無関心の文化に直面する中で強調したいと思います。対話は、恩恵をささげ合うこと的前提となるものであり、人類を成長、発展させ、社会における権力の行使という既成の構図を打破することのできる、人間関係の幅を広げます。ささげ合うことは、単に贈り物をすると同じではありません。自分自身を差し出してはじめてと言えるのであって、単なる財産や物の受け渡しではありません。そこには自らをささげることが含まれており、きずなを結びたいという願いが伴っているからこそ、贈り物をするとは異なるのです。このように、ささげ合うことは、何よりもまず互いに認め合うことであり、社会的きずなにとって不可欠な行いです。そこには、御子イエスの受肉と聖霊の注ぎのうちに頂点に達する神の愛が映し出されているのです。

人はだれもが貧しく、助けを求めており、必要なものに事欠いています。生まれたときには、両親に世話してもらわなければ生きていけません。それと同様に、人生のあらゆる段階や局面で、わたしたちは皆、他者を必要とし、助けを求めずにはいられません。また、ある人や物の前で自分の無力さを実感するという限界から逃れることもできません。こうしたことは、わたしたちが「被造物」であることを表す特徴でもあります。この事実を率直に認めることにより、わたしたちは謙虚さを保ち、生きるうえで欠かせない徳である連帯を、勇気をもって実践するよう促されます。

こうした認識は、個人のものであり共同体のものである善を見据えながら、責任をもって行動し、他の人にも責任を負わせるよう、わたしたちを導きます。人が自分自身のことを、孤立した世界ではなく、その本性上、他のすべての人と結ばれたものとして捉え、本来は互いに「兄弟姉妹」だと感じるときにはじめて、共通善に基づく社会的連帯は可能になります。自分は助けを必要とし、必要なものすべてを自分で得られないからといって、気に病むことはありません。自分ひとりでは、自分の力だけでは、どんな限界も克服できないからです。恐れずにそのことを認めましょう。神はキリストのうちに自らへりくだり（フィリピ 2・8 参照）、わたしたちを助け、わたしたちの力では決して得られない善を与えるために、わたしたちとその貧しさの上に身をかがめてくださったのですから。

インドで厳かに式典が行われるにあたり、わたしは貧しい人と病者への神の愛を目に見えるかたちで示した、愛のわざの模範であるコルカタの聖マザー・テレサの姿を、喜びと称賛のうちに思い起こしたいと思います。彼女の列聖式で述べたように、「マザー・テレサは全生涯にわたり、生まれる前のいのち、世間から見放され見捨てられたいのちといった、人間のいのちを受け入れ守ることを通して、すべての人が神のいつくしみを手にできるよう惜しみなく分け与えました。……衰弱しきって死にかけている人の前にかがみ、道の端に連れて行って死を迎えさせてあげました。神がその人たちにお与えになった尊厳を認めていたからです。彼女は、この世の権力者の前で声を上げ、権力者自身が生み出す貧困という犯罪……に対する彼らの責任を自覚させようと思いました。マザー・テレサにとっていつくしみは、彼女の働きのすべてに味をつける『塩』であり、貧困と苦しみのために涙も枯れ果てた人の闇を照らす『光』でもありました。都市の周辺部と、実存的辺境に対して彼女が行った宣教は、神が極限の貧困にあえぐ人々に寄り添っておられることを雄弁に物語る

あかしとして、今の時代にも生き続けています」（「列聖式ミサ説教」2016年9月4日）

聖マザー・テレサは、言語や文化、民族、宗教の違いにかかわらず、すべての人に無償の愛を示すことこそが、活動の唯一のよりどころであることを教えてくれます。彼女の模範は、理解と優しさを求めている人々、とりわけ苦しんでいる人々のために、喜びと希望の展望を切り開くよう、わたしたちを導き続けます。

医療活動にとって極めて重要であり、よいサマリア人の精神をあらゆる形で体現しているボランティアの人々にとっては、無償であることこそが活動の原動力です。患者の搬送や救護に従事しているボランティア団体、さらには血液、組織、臓器提供のために尽力しているボランティア団体に、わたしは感謝と励ましの意を表します。人々の中の意識を高め、予防を充実させることも忘れてはなりません。教会がとりわけ注目しているのは、病者の権利、とりわけ特別な治療を要する患者の権利を擁護する活動です。また、医療機関や在宅ケアでの皆さんのボランティア活動は根本的に重要なものであり、保健衛生から精神的サポートまで多岐にわたっています。その活動は病者、孤立した人、高齢者、心やからだが衰弱している人など、大勢の人々のために役立っています。わたしは皆さんが、この世俗化した世界において教会のしるしであり続けるよう願っています。ボランティアは、思いや感情を打ち明けることのできる公平無私な友です。傾聴することを通して彼らは、治療される受動的な存在である病者を、相互の関係における能動的な主体へと変えることができます。それにより病者は希望を取り戻し、治療を受ける心構えをもてるようになるのです。ボランティア活動は、「ささげる」というパン種を核心とする価値観、姿勢、生き方を伝えています。それは、治療をより人間味あふれるものにする活動でもあります。

とりわけカトリック系の医療機関は、無償であるという側面によって推進されるべきです。その働きは世界中、先進地域においても極貧地域においても、福音の論理のもとに行われているからです。利益最優先の論理、見返りを求める論理、人間を無視した搾取の論理に対して、カトリック諸機関はささげること、無償であること、連帯することの意味を明らかにするよう求められています。

利益優先の使い捨て文化を克服するために欠かせない無償で与える文化を、あらゆる分野に広めるよう、わたしは皆さんに強く求めます。カトリック系の医療機関は、利益優先主義に陥ることなく、収益よりも人々への配慮を重んじるべきです。健康状態は他者との関係に左右される相関的なものであり、信頼関係と友情、連帯を必要とすることは言うまでもありません。それは、分かち合っはじめて「十分に」味わうことのできる恵みです。無償で与える喜びは、キリスト者の健康状態を示す指標なのです。

わたしは「病者の回復」であるマリアに、皆さんをゆだねます。わたしたちが対話と相互受容の精神のもとに受けたたまものを分かち合い、他者の必要に心を配りながら兄弟姉妹として生き、寛大な心で与えるすべを身につけ、私欲にとらわれずに奉仕する喜びを知ることができるよう、マリアが助けてくださいますように。わたしは祈りのうちに皆さんに寄り添うことを約束し、心から使徒的祝福を送ります。

バチカンより

2018年11月25日

王であるキリストの祭日

フランシスコ

★☆☆

2018年度第5回小教区評議会

- 1、日 時：2019年2月3日（日）12：00～12：35
- 2、場 所：信徒会館第4会議室
- 3、出席者：アルフレド主任司祭、高山助任司祭、評議会役員・評議員

- (1) 主任司祭の挨拶
- (2) 協議事項
- ① 2019 年度年間行事予定について(配布資料参照)
- (3) 報告事項
- ① 2019 年度予算について
- ② クリスマス関連行事報告
- ③ 1 月度神戸地区宣教司牧評議会(1 月 6 日) 報告
- ④ 第 6 回イエズス会 4 教会 WEB 会議(1 月 19 日) 報告

以上

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

2018 年度第 6 回地区役員会(2019 年 2 月 10 日) 議事録

- 1. 2019 年度地区役員メンバー
- 2. 教会行事報告
 - 1) 主の降誕夜半ミサお茶(2018/12/24)
 - 2) 神の母マリアミサ後カウントダウン(2018/12/31)
 - 3) 新年会新成人祝福式(2019/01/13)
 - 4) 地区懇親会報告(2018/12/16)
- 3. 教会行事日程と行事担当確認
- 4. 2019 年度地区会予算
- 5. 2019 年度地区役員会開催日
- 6. 教会報の編集について
- 7. その他

2019 年度第 1 回地区役員会開催日: 2019 年 4 月 14 日(日)12:00～

以上

<行事報告>

地区社会活動部 静修会(2 月 16 日)

静修会「現代社会と信仰生活 —社会活動委員として私たちにできること—」

2 月 16 日(土)、カトリック住吉教会で開かれたシナピス神戸主催の静修会には神戸地区の教会から合計 90 名ほど、六甲教会からも多くの信徒が参加しました。

アベイヤ補佐司教様は、教会は歩みの初めから社会問題に取り組んできたが、その原点は、「イエスは手の萎えた人に、『真ん中に立ちなさい』と言われた」(マルコ 3:3) のように弱者を中心に据えられたイエス様に倣うことにあり、それを教皇聖パウロ六世は、「教会はこの苦しみの叫びの前に震えながら、皆さん一人一人が兄弟の訴えに愛をもって応えるように求めています」と呼びかけられたこと、そして、キリスト者の社会活動を支えるために「霊性」、「祈り」、「互いに支え合うこと」が重要だとお話してくださいました。

その後、10 グループに分かれて「信仰と社会活動について」や「日本における社会活動の課題」をテーマに分ち合いをしました。共同体での困難や日常生活で疑問に思うことを分かち合う中で、「虐待や孤独死、貧困という現代の問題は可視化することによって行政や NPO と連携をとることができる」、「祈りは行動へ」、「微笑みひとつが社会活動」等、より具体的な方向をみつけようとして、キリストに結ばれた兄弟姉妹との絆を深めることができたひとときでした。

続くミサの朗読は、神から離れた人間（創世記 3）とイエス様の手に渡されたパンと魚は豊かに人々を満たした（マルコ 8）で、私たちの小さな活動を喜んでくださる主の元へ貧しい捧げものを運ぶだけであとは主がしてくださり、そして私たちは原始に離れた主の元へ帰ることが待たれているのだと思いました。

「霊性の重要さ」とお聞きして、罪びとを招いてくださる主の御手にいっそ我が身を捧げたとき（委ねたとき）、私たちはもはや社会活動をしているのではなく、キリストの衣をまとい、主の証びととなっているのかもしれないと思った帰り道でした。そのような恵みを願います。

（マリア 塚）

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

<行事報告>

祈りと音楽の集い～詩編・哀歌・雅歌～（2月17日）

2月17日、薄曇りの冬空の下、180名のお客様を前に静かな祈りのコンサートが開催されました。演奏は神戸発、世界的に有名なバッハ・コレギウム・ジャパンで活躍されたソプラノの緋田芳江さん。準備されたプログラムは宗教音楽を熟知された緋田さんが選曲され、「詩編」「哀歌」普段聞く機会が少ない「雅歌」からでした。当教会信徒でバロックヴァイオリンの大津睦さんが、テナーや合唱部分を演奏され、オルガンが伴奏をし、歌と楽器との掛け合い部分もありました。

「春を待つ寒い冬から、春に向かい賛美を歌う」という緋田さんのお話のとおり、オルガンの独奏もはさみながら、聖堂が、空気が、静寂から徐々に華やいでいくことが感じられました。

今回は特に教会外からの音楽愛好家の未信者の方が多く「信者でもないのに聖堂に入ってよいのですか？」という質問が多くありました。教会の聖堂で宗教音楽を聴いていただくことは、身近にできる宣教と感じます。

来年度も4回のオルガンや歌の「祈りと音楽の集い」を企画しております。どうぞみなさん、お誘いの上ご参加ください。

（音楽チーム 清水）

「祈りと音楽の集い」に参加して

去る2月17日に祈りと音楽の集いが催されました。

この集いに聖書の朗読者として参加してみませんかとお誘い頂き、こんな私で良いのかと悩みましたが新しい挑戦だと思い、お受け致しました。

今回のプログラムは詩編、哀歌、雅歌で構成されていましたが、私の中であまり馴染みのない聖書の箇所もあり、新鮮な気持ちと共に表現の難しさも感じました。当日は、聖堂に響く荘厳なパイプオルガンの音色、ヴァイオリンの響き、美しいソプラノの歌声に圧倒され、ただ間違えないようにと必死でした。

緊張した雰囲気でしたが、皆さんが、祈りと音楽の世界に引き込まれている様子がとてもよく伝わってきました。この日は185名もの方々が来場して下さいました。一緒に祈りと音楽の中で過ごせた事を神様に感謝したいと思います。（千原）

今回の「祈りと音楽の集い」は今日のために特別に選ばれた旧約聖書の詩編、哀歌、雅歌、によるみことばと共に17世紀ごろのバロック音楽がそれぞれオルガン独奏、ソプラノ独唱、バロックヴァイオリンで協演され、とてもバラエティーに富んだ楽しい集いでした。

特にお隣の神港教会から来てくださった緋田芳江さんのソプラノは詩編も、哀歌も、雅歌もノンビブラートで賛美歌にふさわしい心のこもった演奏に感動しました。三浦優子さんのオルガン・ソロもさすがにすごいと思いました。また若手の松井公子さんのオルガン、バロックヴァイオリンの

大津睦さん、ソロの緋田芳江さんを交えた三人の演奏は音のバランスもとても良く揃っていて良かったと思います。それぞれの演奏の前に聖書朗読をしてくださった千原理沙さんのゆっくりとした声の響きは祈りの助けになりました。ありがとうございました。

次回が楽しみです。

(鈴木)

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

3月9日(土) 10時 炊き出し (イグナチオホール 台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話相手や配食だけでもOKです。

3月17日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

ともしび会 (日程は未定) 施設の子どもたちへのケーキ作り (イグナチオホール台所)



教会報4月号の発行は、3月31日(日)です。 原稿は3月17日(日)までに教会受付へご提出 ください。FAX 及びメールでも受付いたします。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 Mail address renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部
--	---